

# Consolidated Business Results & Forecasts

## 2022年3月期 決算説明会

2022年5月11日

### 株式会社SCREENホールディングス

#### 内容：

- ・ 2022年3月期 連結決算の概要 専務取締役（CFO） 近藤 洋一
- ・ 事業環境および業績予想 代表取締役 取締役社長（CEO） 廣江 敏朗

#### 資料取り扱い上の注意

- ・ 本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・ 本資料では、例えば、「FY2022/03」と示す場合、2021年4月1日～2022年3月31日の会計期間を表します。

# 2022年3月期 連結決算の概要

2022年5月11日

---

株式会社SCREENホールディングス  
専務取締役 最高財務責任者 (CFO)

近藤 洋一

## 2022年3月期実績

- 全社>>
  - ・業績堅調、売上、利益ともに過去最高
  - ・前期比増収増益、営業利益は2.5倍、当期純利益は3倍  
部材不足、物流コストアップが懸念される中、早期にSCM に注力
- SPE>>
  - ・全社業績を大きく牽引。売上、営業利益、営業利益率ともに過去最高
  - ・4Qの営業利益率は23.0%、受注高は1,053億円、ともに過去最高
- 財務体質も大きく改善。CFは安定推移、ネットキャッシュ888億円
- 過去最高の293円に増配予定

# FY2022/03 連結業績

前期比

	FY2021/03					FY2022/03					前期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期		
(億円)												
売上高	668	758	737	1,038	3,203	828	1,043	1,039	<b>1,207</b>	<b>4,118</b>	<b>915</b>	<b>28.6%</b>
営業利益 営業利益率	18 2.8%	46 6.1%	63 8.6%	116 11.3%	244 7.6%	86 10.5%	153 14.7%	160 15.5%	<b>211</b> <b>17.5%</b>	<b>612</b> <b>14.9%</b>	<b>367</b>	<b>150.2%</b> <b>7.3pt</b>
経常利益	19	34	58	114	227	86	151	161	<b>195</b>	<b>594</b>	<b>367</b>	<b>161.6%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	19	13	45	72	151	60	115	120	<b>158</b>	<b>454</b>	<b>303</b>	<b>199.9%</b>

(億円)	上期 (前期実績)	下期 (前期実績)	通期 (前期実績)
減価償却費	<b>47</b> (47)	<b>47</b> (48)	<b>95</b> (96)
設備投資額	<b>41</b> (27)	<b>92</b> (50)	<b>134</b> (78)
研究開発費	<b>105</b> (102)	<b>135</b> (112)	<b>240</b> (215)

## >>期末配当について

- ・親会社株主に帰属する当期純利益が1月予想からの上振れを踏まえ増配（2022年6月株主総会で決議予定）
- ・中期経営計画の連結総還元性向30%以上方針に沿って、株主の皆様へ還元

(円)	通期 (前期実績)
1株当たり配当予想	<b>293</b> (90)

# FY2022/03 連結業績

前期比

(億円)	FY2021/03					FY2022/03					前期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期		
<b>売上高</b>	<b>668</b>	<b>758</b>	<b>737</b>	<b>1,038</b>	<b>3,203</b>	<b>828</b>	<b>1,043</b>	<b>1,039</b>	<b>1,207</b>	<b>4,118</b>	<b>915</b>	<b>28.6%</b>
SPE	526	547	545	735	2,355	597	816	846	932	3,193	838	35.6%
GA	79	90	93	111	374	96	112	99	123	433	59	15.8%
FT	36	89	71	149	347	102	72	55	101	332	△14	△4.1%
PE	23	23	22	34	104	23	34	33	40	133	28	27.6%
その他および調整	2	7	4	7	22	8	5	2	8	25	3	15.2%
<b>営業利益</b>	<b>18</b>	<b>46</b>	<b>63</b>	<b>116</b>	<b>244</b>	<b>86</b>	<b>153</b>	<b>160</b>	<b>211</b>	<b>612</b>	<b>367</b>	<b>150.2%</b>
営業利益率	<b>2.8%</b>	<b>6.1%</b>	<b>8.6%</b>	<b>11.3%</b>	<b>7.6%</b>	<b>10.5%</b>	<b>14.7%</b>	<b>15.5%</b>	<b>17.5%</b>	<b>14.9%</b>	<b>7.3pt</b>	
SPE	42	44	64	107	259	88	154	171	214	628	368	141.7%
GA	△3	1	1	5	5	2	4	4	5	16	11	205.5%
FT	△15	4	1	13	4	2	△0	△3	7	5	1	35.0%
PE	1	1	0	4	7	2	7	6	5	20	13	168.3%
その他および調整	△6	△6	△5	△14	△32	△8	△10	△17	△21	△58	△26	-
<b>経常利益</b>	<b>19</b>	<b>34</b>	<b>58</b>	<b>114</b>	<b>227</b>	<b>86</b>	<b>151</b>	<b>161</b>	<b>195</b>	<b>594</b>	<b>367</b>	<b>161.6%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>19</b>	<b>13</b>	<b>45</b>	<b>72</b>	<b>151</b>	<b>60</b>	<b>115</b>	<b>120</b>	<b>158</b>	<b>454</b>	<b>303</b>	<b>199.9%</b>

■ SPE：半導体製造装置事業

■ FT：ディスプレイ製造装置および成膜装置事業

■ GA：グラフィックアーツ機器事業

■ PE：プリント基板関連機器事業

# FY2022/03 連結業績

## セグメント別

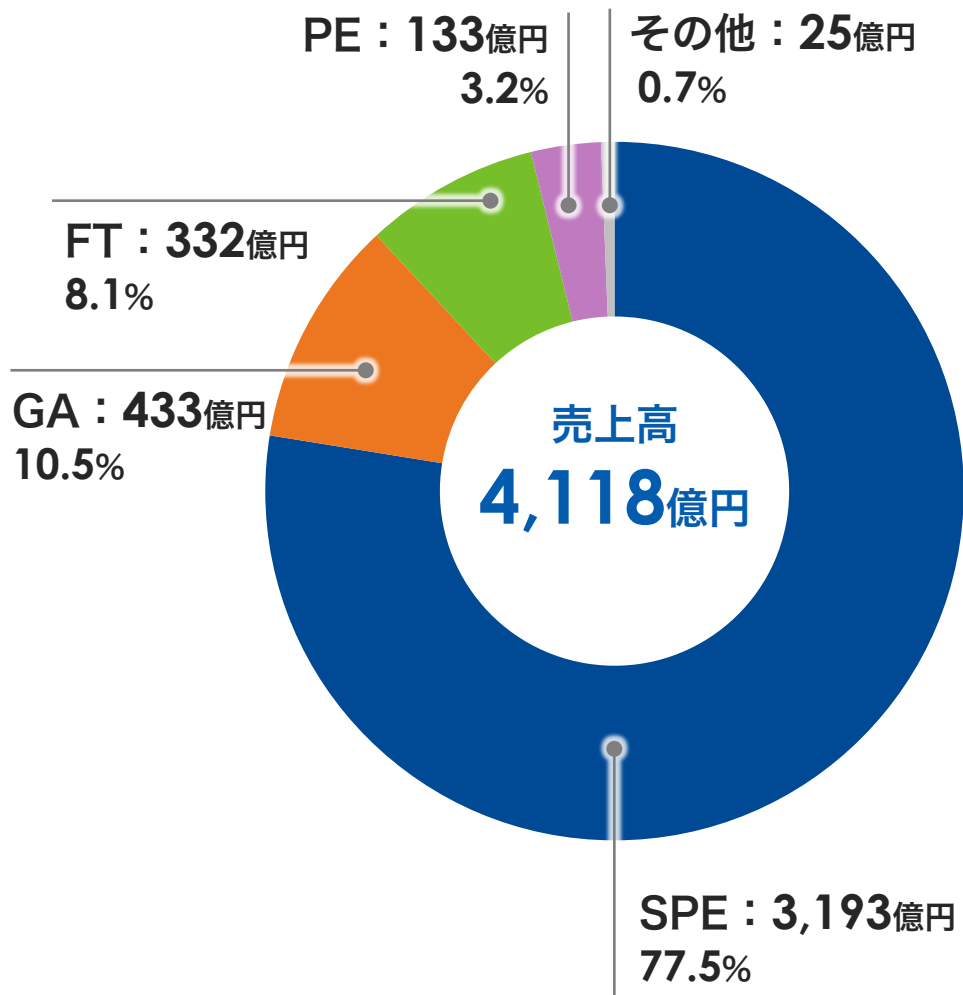
■ 通期、前期比 (YoY) □ 4Q、3Q比 (QoQ)

(億円)

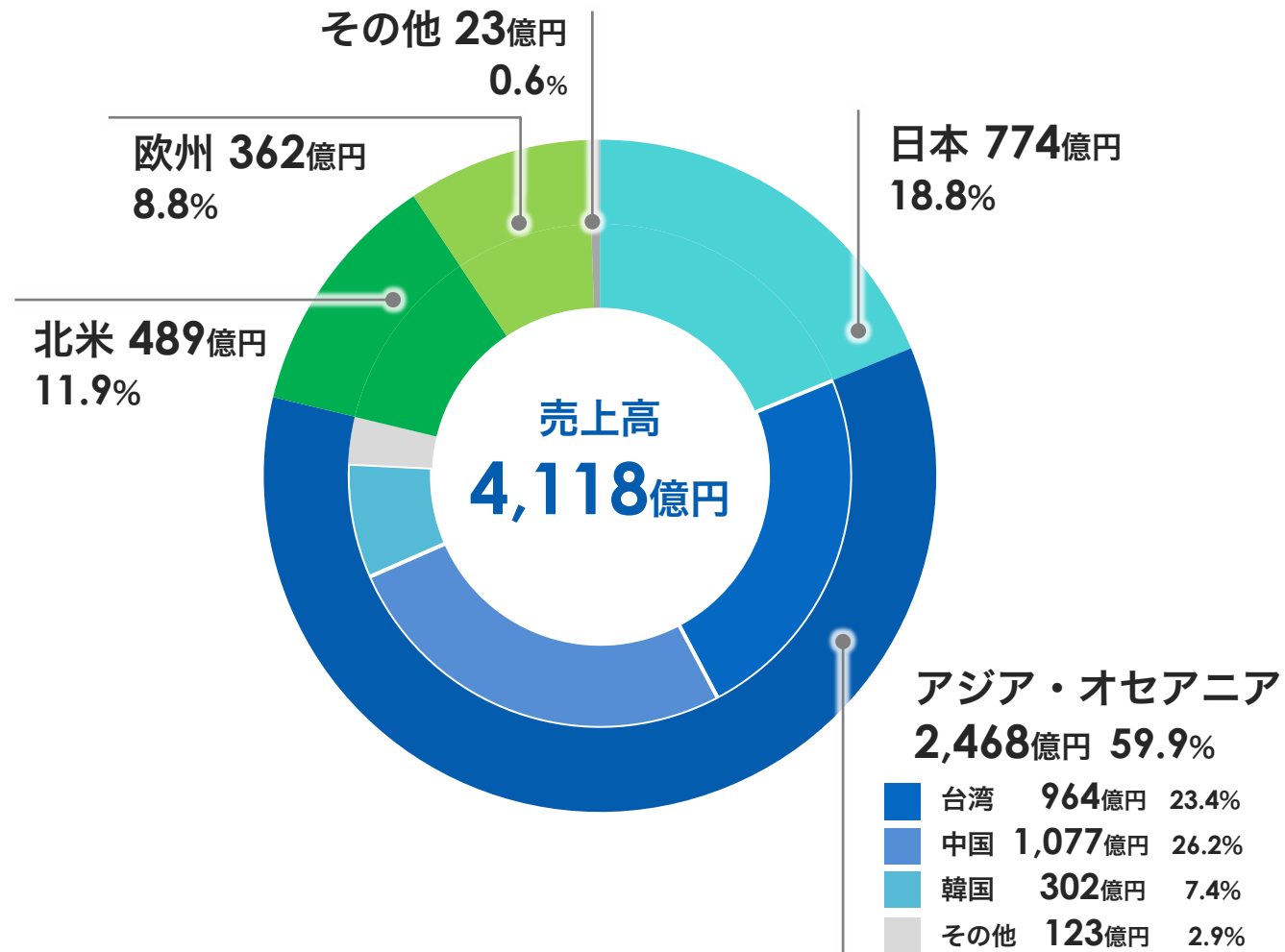
		FY2021/03					FY2022/03					
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
<b>SPE</b>	ファウンドリー、DRAM、ロジック向けの売上が大幅増加。台湾中心に、各地域で売上増加	売上	526	547	545	735	2,355	597	816	846	932	3,193
	ファウンドリー、DRAM、ロジックの売上が増加	営業利益 営業利益率	42 8.1%	44 8.2%	64 11.9%	107 14.7%	259 11.0%	88 14.9%	154 18.9%	171 20.2%	214 23.0%	628 19.7%
<b>GA</b>	顧客の設備投資意欲の回復を受け、PODやリカーリングビジネス (RB) とともに売上増加	売上	79	90	93	111	374	96	112	99	123	433
	RBの売上は引き続き堅調	営業利益 営業利益率	△3 △5.0%	1 1.9%	1 2.1%	5 5.0%	5 1.4%	2 2.7%	4 3.6%	4 4.3%	5 4.3%	16 3.8%
<b>FT</b>	OLED向け売上は増加するも、LCD向けが減少して減収。構造改革により採算性改善	売上	36	89	71	149	347	102	72	55	101	332
	黒字回復。彦根の生産設備・生産要員を一部SPEへ。グループ内シナジーを発揮	営業利益 営業利益率	△15 △41.4%	4 5.2%	1 2.5%	13 8.8%	4 1.3%	2 2.2%	△0 △0.9%	△3 △5.5%	7 7.2%	5 1.8%
<b>PE</b>	データセンター、5G関連需要を受け、直接描画装置の売上が増加、利益は大幅増加	売上	23	23	22	34	104	23	34	33	40	133
	引き続き業績堅調。利益率は高位安定	営業利益 営業利益率	1 5.2%	1 6.2%	0 1.4%	4 13.6%	7 7.4%	2 9.0%	7 21.0%	6 17.8%	5 12.9%	20 15.6%

# FY2022/03 連結業績

## セグメント別売上高

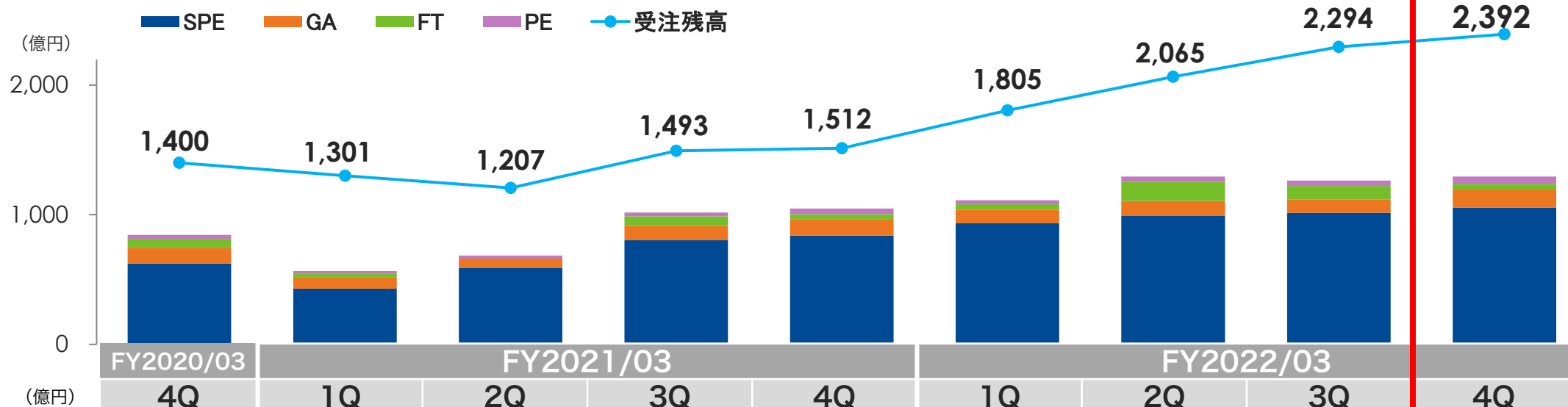


## 地域別売上高





# 連結受注高／受注残高の四半期推移



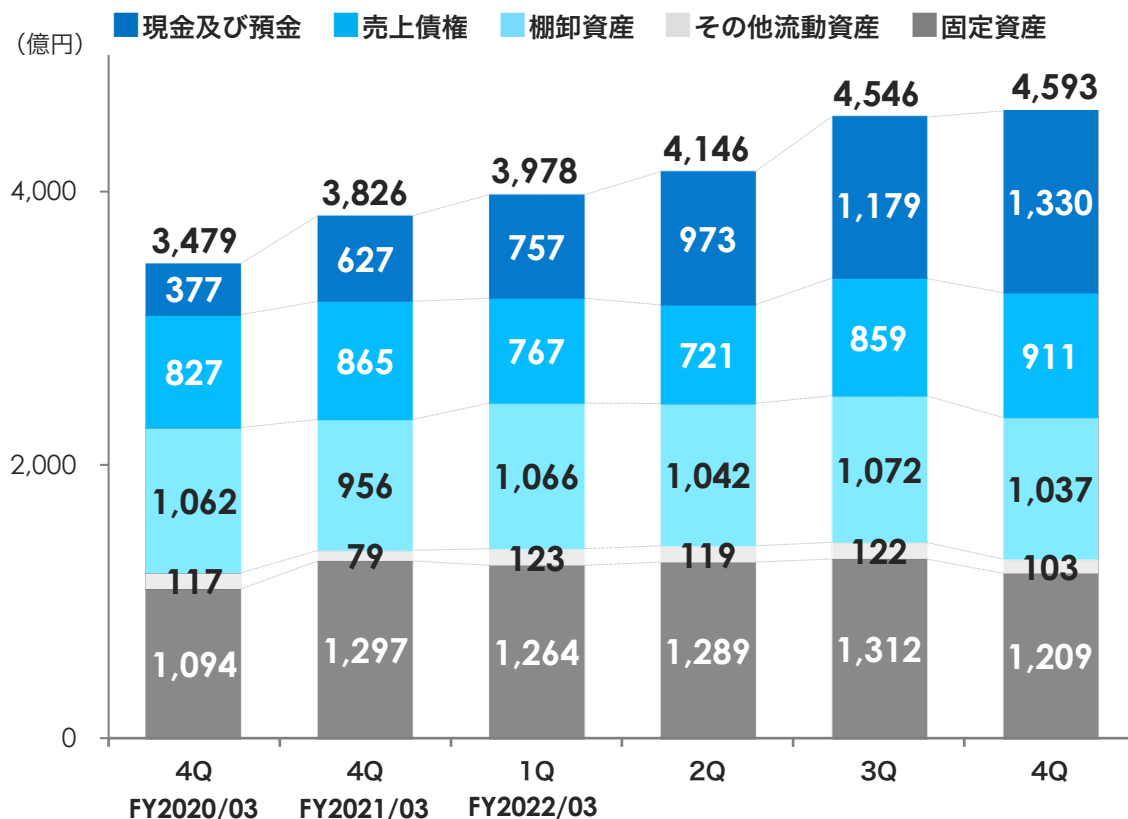
	FY2020/03		FY2021/03				FY2022/03			
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
<b>受注高</b>	<b>846</b>	<b>567</b>	<b>657</b>	<b>1,018</b>	<b>1,049</b>	<b>1,113</b>	<b>1,297</b>	<b>1,265</b>	<b>1,296</b>	
SPE	624	430	591	803	839	933	994	1,015	<b>1,053</b>	
GA	120	89	70	110	127	105	112	103	<b>141</b>	
FT	69	25	△29	74	39	42	146	103	<b>44</b>	
PE	31	22	24	30	43	31	43	42	<b>57</b>	
<b>受注残高</b>	<b>1,400</b>	<b>1,301</b>	<b>1,207</b>	<b>1,493</b>	<b>1,512</b>	<b>1,805</b>	<b>2,065</b>	<b>2,294</b>	<b>2,392</b>	
SPE	841	744	788	1,046	1,150	1,486	1,664	1,833	<b>1,954</b>	
GA	53	64	44	61	78	86	86	90	<b>107</b>	
FT	491	480	361	363	254	194	268	316	<b>259</b>	
PE	13	12	13	21	30	37	46	54	<b>70</b>	

過去最高

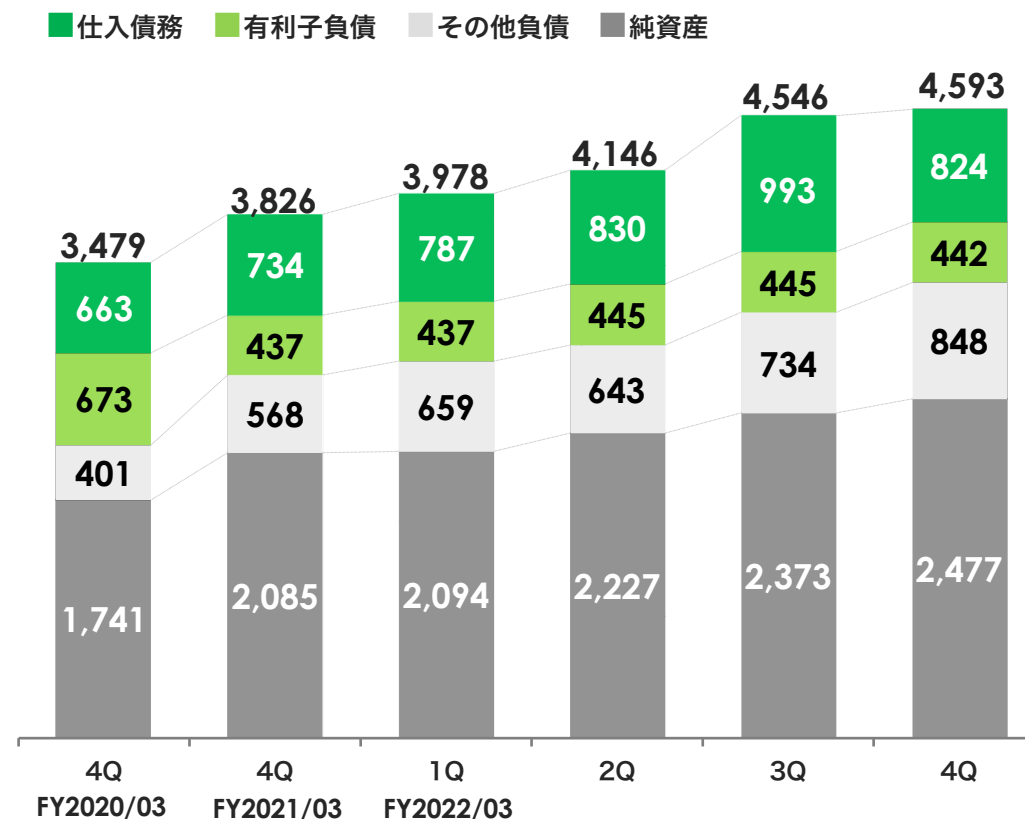
過去最高

# 財務状況：連結貸借対照表

## 資産



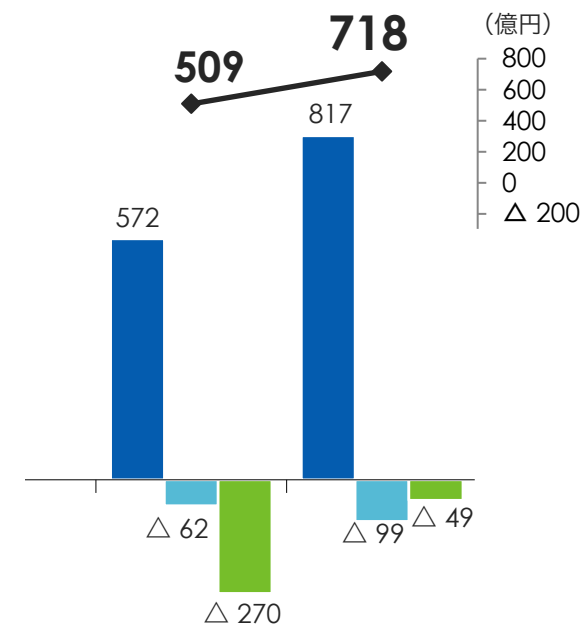
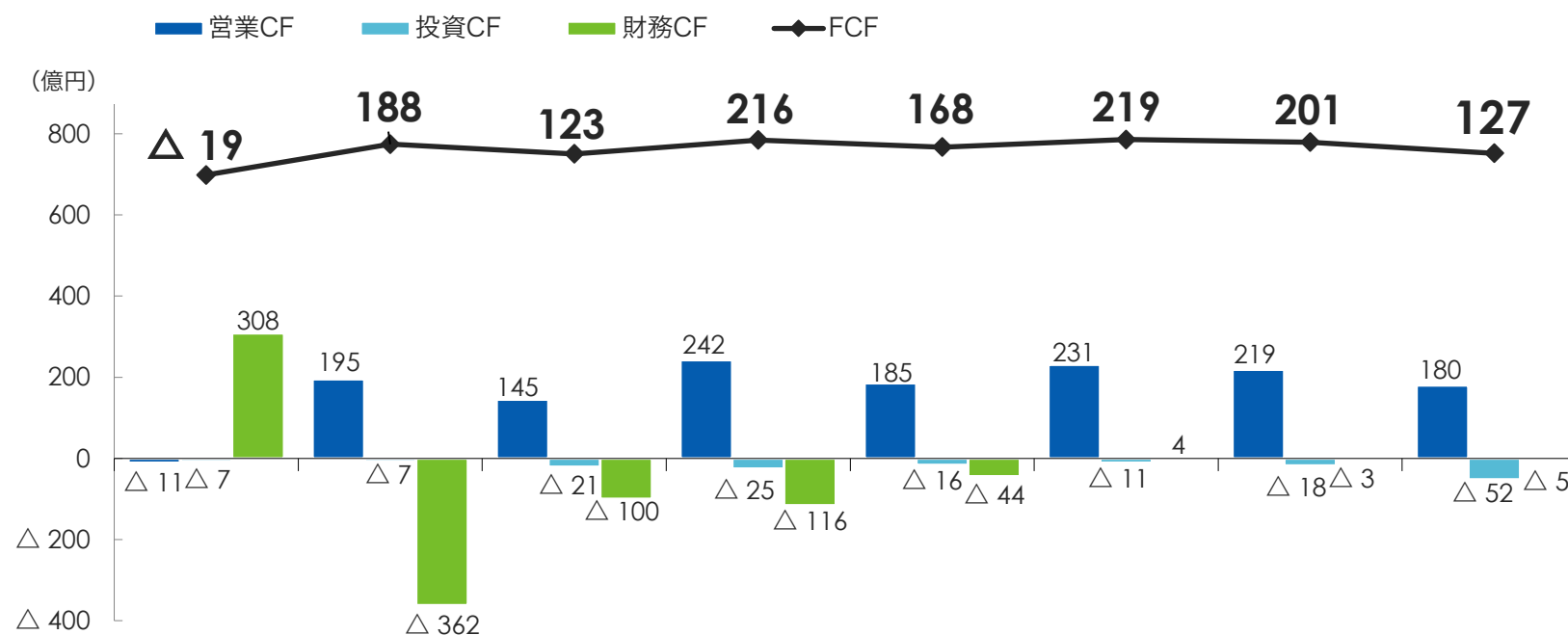
## 負債および純資産



■ 自己資本比率は53.9% (FY2022/03 4Q)

■ 増収局面でもCFは安定推移。888億円のネットキャッシュ

# 財務状況：連結キャッシュ・フロー



(億円)	FY2021/03				FY2022/03			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業CF	△11	195	145	242	185	231	219	<b>180</b>
投資CF	△7	△7	△21	△25	△16	△11	△18	<b>△52</b>
FCF	△19	188	123	216	168	219	201	<b>127</b>
財務CF	308	△362	△100	△116	△44	4	△3	<b>△5</b>

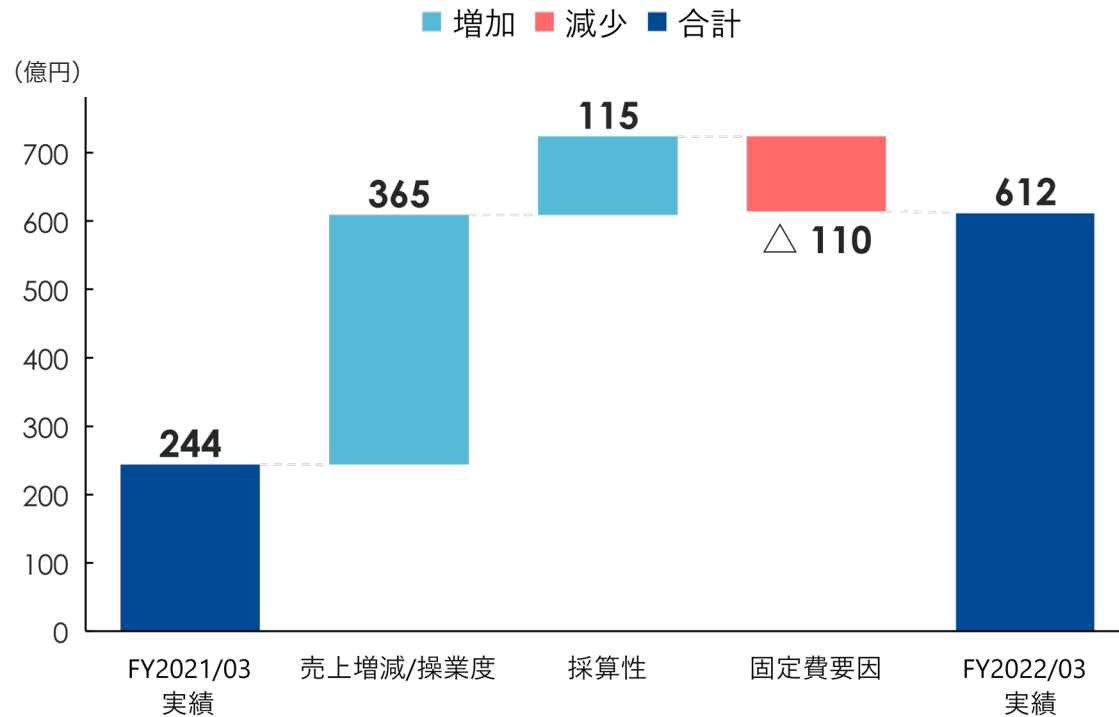
FY2021/03	FY2022/03
通期	通期
572	<b>817</b>
△62	<b>△99</b>
509	<b>718</b>
△270	<b>△49</b>

※ FCF：フリーキャッシュ・フロー

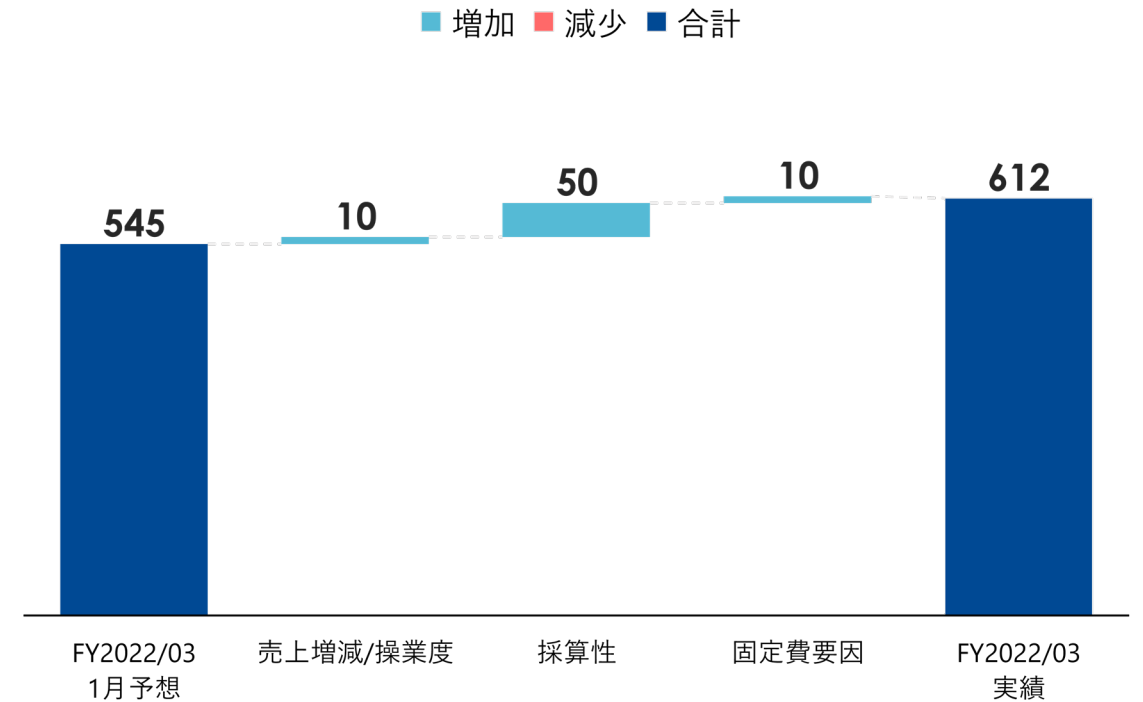
■ 通期、営業CFは営業利益を超える水準継続

# 営業利益増減分析

## FY2022/03 実績 (FY2021/03 実績比)



## FY2022/03 実績 (1月予想比)



※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

- >>売上増効果は主にSPE。採算性改善は主にSPE、FT
- >>固定費の増加は主にSPE、GA。業績連動賞与、研究開発費増加など
- >>各増減要因に含まれる為替影響はネット+25億円

- >>売上増効果は主にGA。採算性改善は主にSPE
- >>SPEの固定費が減少
- >>各増減要因に含まれる為替影響はネット+5億円

# 事業環境および業績予想

2022年5月11日

---

株式会社SCREENホールディングス  
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者（CEO）

**廣江 敏朗**

# 事業環境および業績予想

## ■ 事業環境

- SPE：
  - ・各アプリケーションで、先端、量産ノード向けともに投資を牽引
  - ・ファウンドリー、ロジック中心に設備需要は強含んでいる
  - ・4Q受注高1,053億円、4四半期連続で過去最高を更新  
今後も1,000億円水準の四半期受注を見込む
- GA、PE：受注は高水準、堅調

## ■ 通期業績予想

- 収益性、効率性の改善により売上、利益ともに過去最高を更新予定
- 持続的な成長に向け、設備投資、研究開発、減価償却はいずれも過去最大に
- 旺盛な設備投資需要に対応するため、新工場S<sup>3</sup>-4を彦根に増設
- 中期経営計画の経済的価値の目標を1年前倒しで達成の見込み
- 配当：過去最高の322円を予定

# セグメント別概況

## 市場動向および見通し

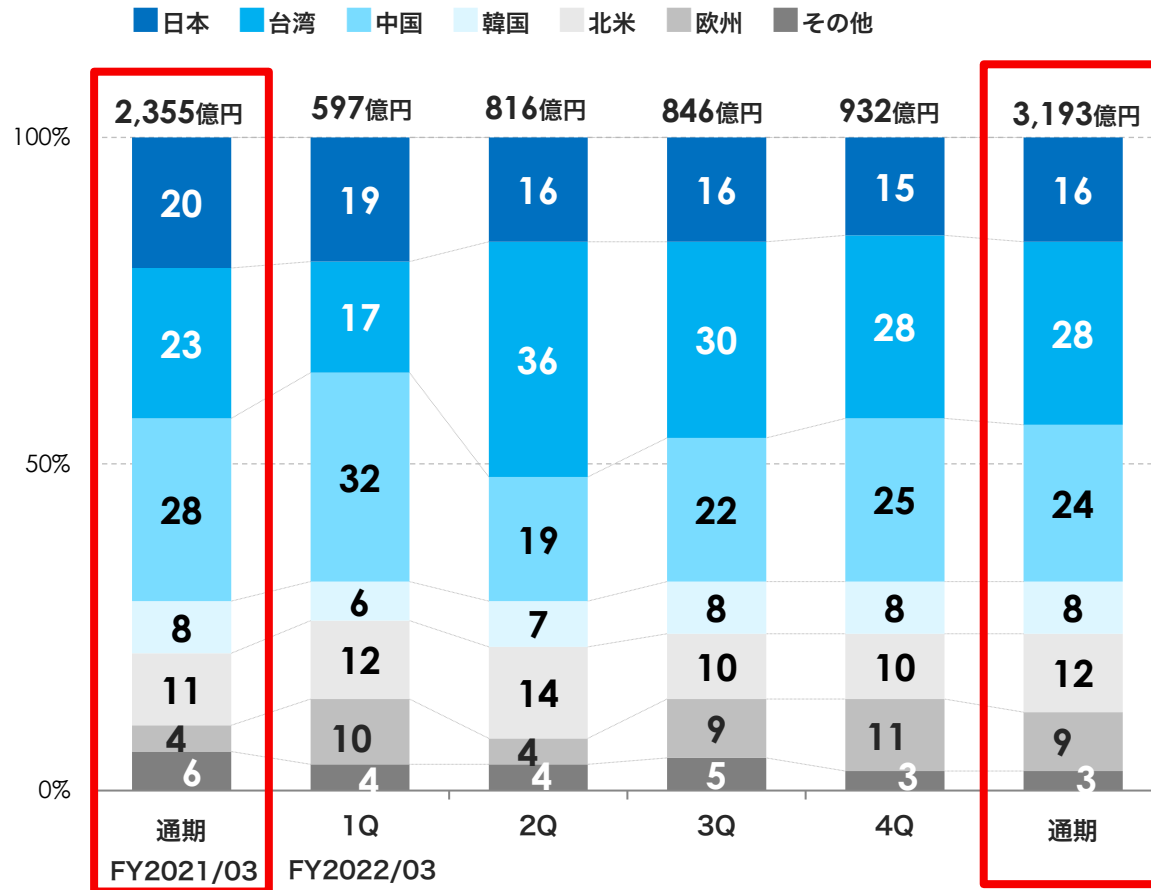
- **WFE**：ファウンドリー・ロジックを中心に力強い投資継続。成熟ノード向け投資も衰えず
  - ・ 2024年稼働に向けた各プロジェクトは着実に進行
  - ・ CY2022は前年比+15%以上の伸びを予想（\$105bn以上）
- **アプリケーション別の動向**：

ファウンドリー	先端を中心に成熟世代まであらゆる技術ノードへの投資が力強く継続
ロジック	先端の量産投資だけでなく開発拠点向け投資も増加
メモリー	DRAMは今期微細化、NANDは積層化とボリュームゾーンへの投資継続
画像素子	既存大手だけでなく中国新興やファウンドリーでの投資など活発
パワー	欧州大手の投資意欲衰えず。日本も堅調に推移
中国市場	成熟ノードファウンドリー中心に、メモリー、パワーなどバラエティに富む（外資を含む）
その他	アナログ、センサー、光学なども堅調な投資が続く

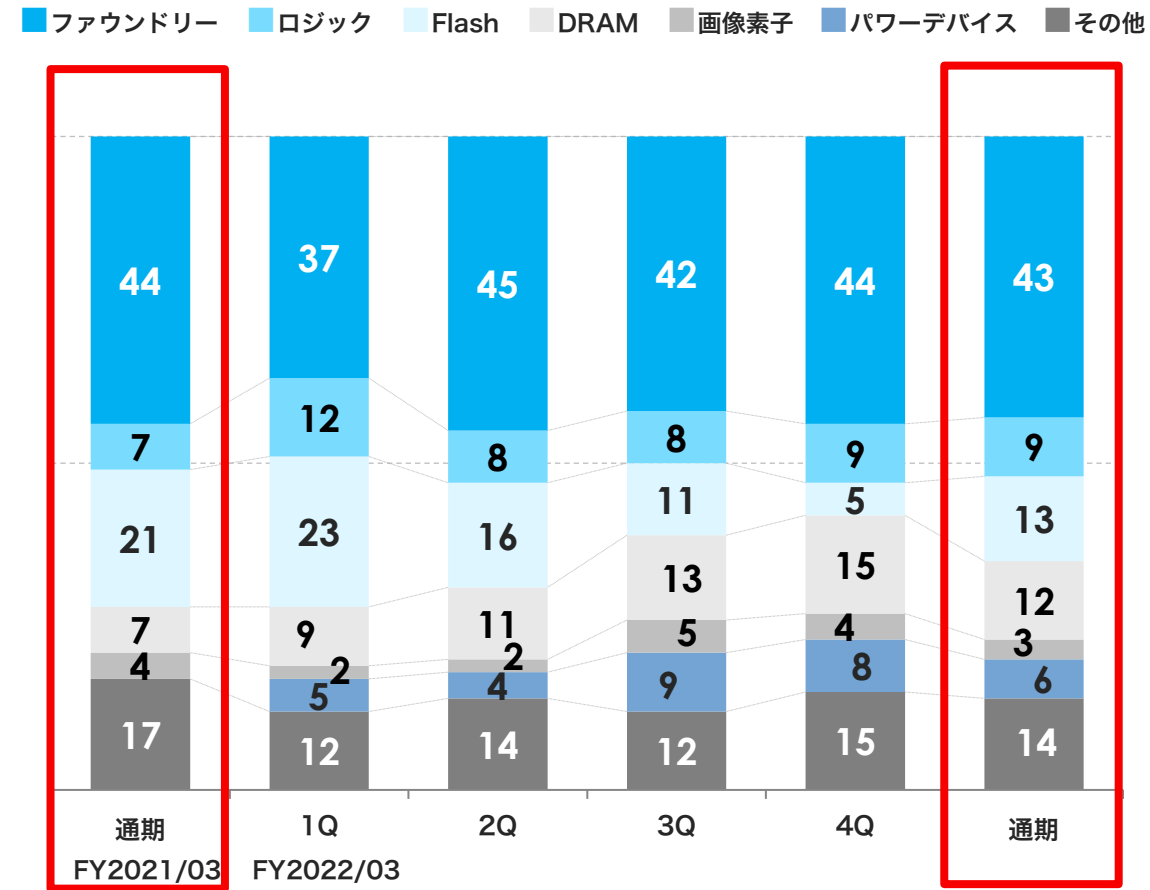
- ▶ 最先端ノードへのパイプラインを重視、PORを死守
- ▶ 微細化に伴う洗浄ニーズが高まる先端～ボリュームゾーンから成熟ノードまで、多様なソリューションを提供
  - 供給責任を果たすべく、万全な生産・開発体制で臨む

SPE

## 連結・地域別 - 仕向地ベース



## 単独・アプリケーション (デバイス) 別



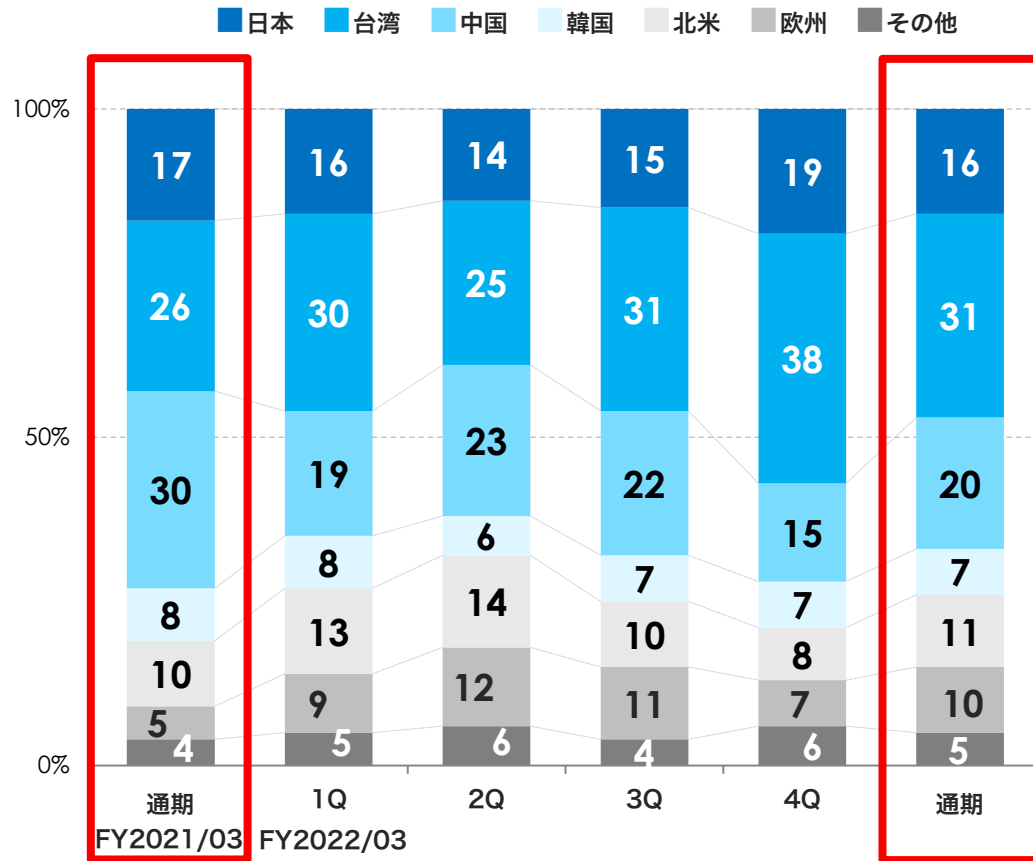
■ 地域別：通期 (YoY)、台湾を中心に、各地域で売上が増加

■ アプリケーション別：通期 (YoY)、ファウンドリー、ロジックは堅調、DRAMも増加

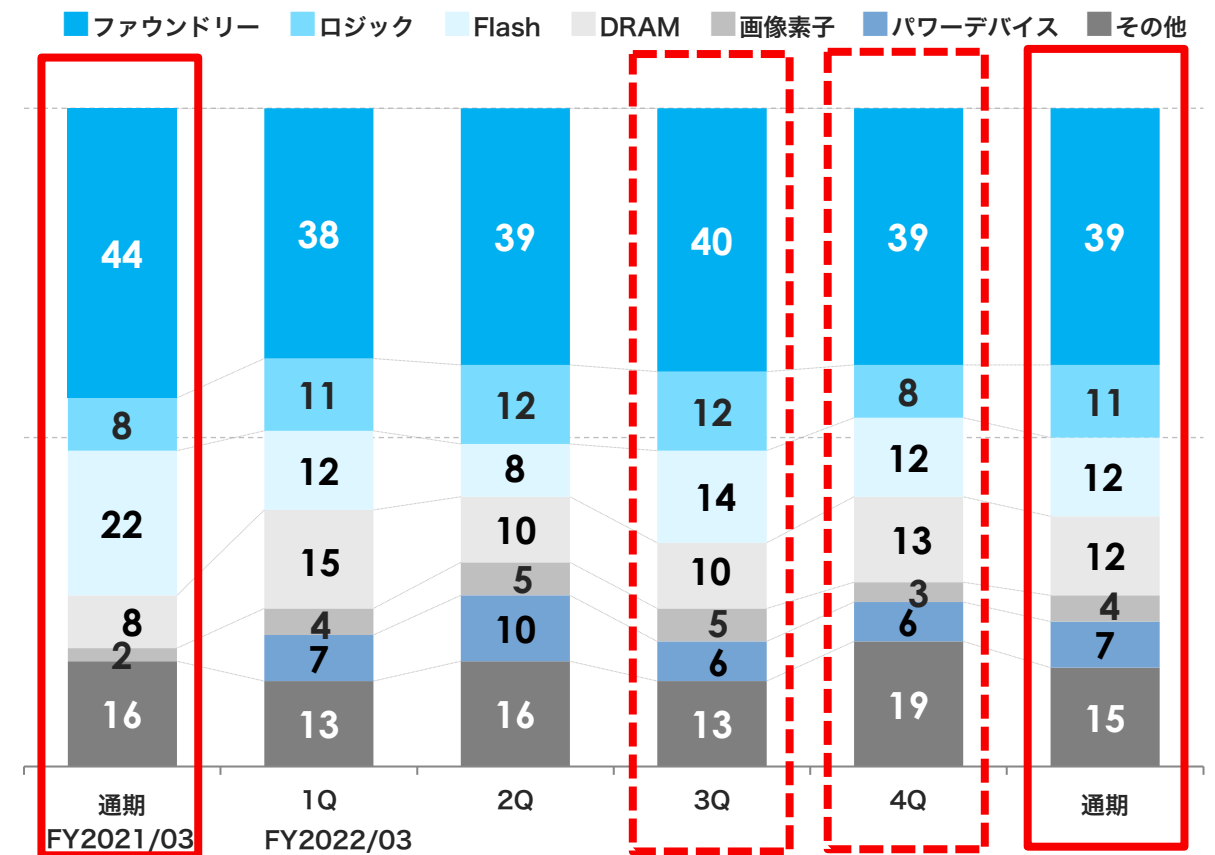


# 単独・受注高比率

## 地域別 - 仕向地ベース

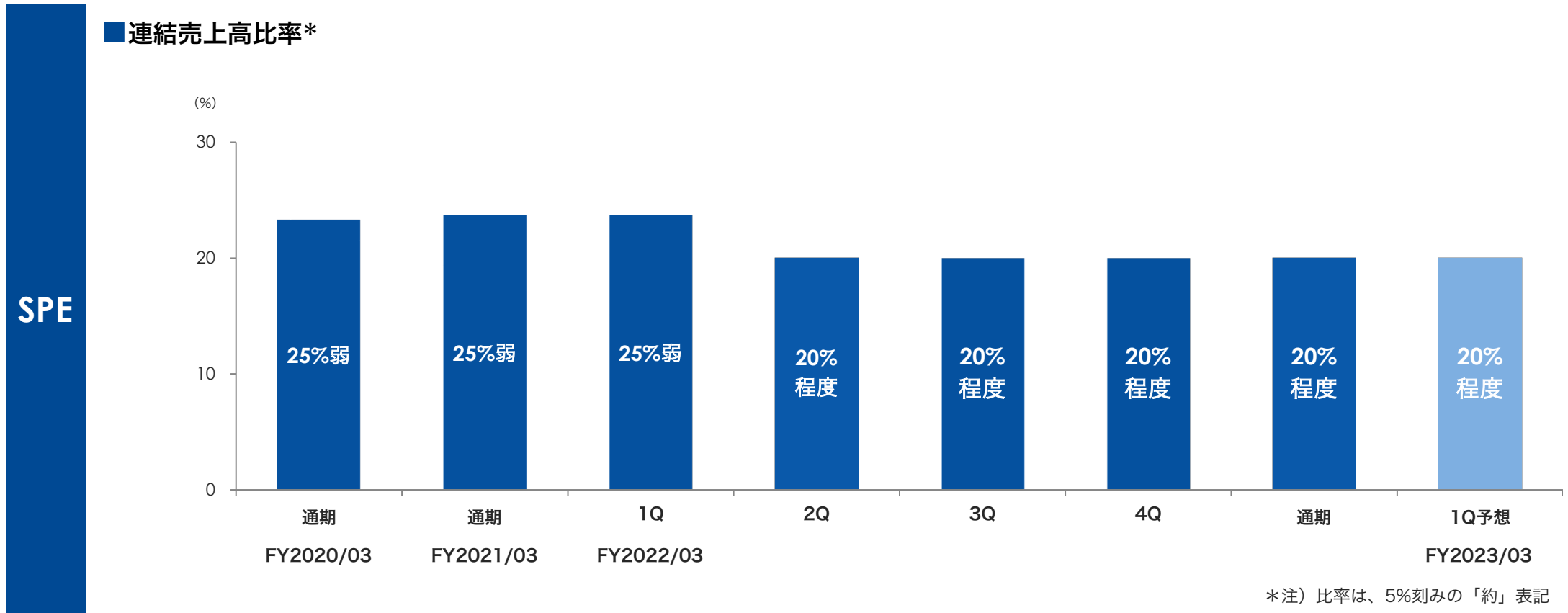


## アプリケーション (デバイス) 別 - 四半期推移



- 地域別：通期 (YoY) 台湾中心に、各地で増加。4Q (QoQ) 台湾が大幅増、日本も増加
- アプリケーション別：通期 (YoY) ロジック、DRAMが増加。4Q (QoQ) ファウンドリーは堅調、DRAMも増加
- 今後の見通し：1,000億円水準が続く見込み

## ポストセールス (PS)



- 4Q：QoQで売上は着実に増加
- 1Q：4Q同程度の比率の見込み
- 今後：増加した新規納入装置向けのメンテナンス、改造などで、さらなる営業利益率改善に期待

# セグメント別概況

## 半導体製造装置 新工場「S<sup>3</sup>-4 (エス・キューブ フォー)」



>>主力工場のS<sup>3</sup>-3に連結する形のS<sup>3</sup>-4稼働により、SPEの生産能力は20%アップ  
 →彦根事業全体の生産プロセスを再整備。生産効率を上げ、さらに収益アップへ貢献

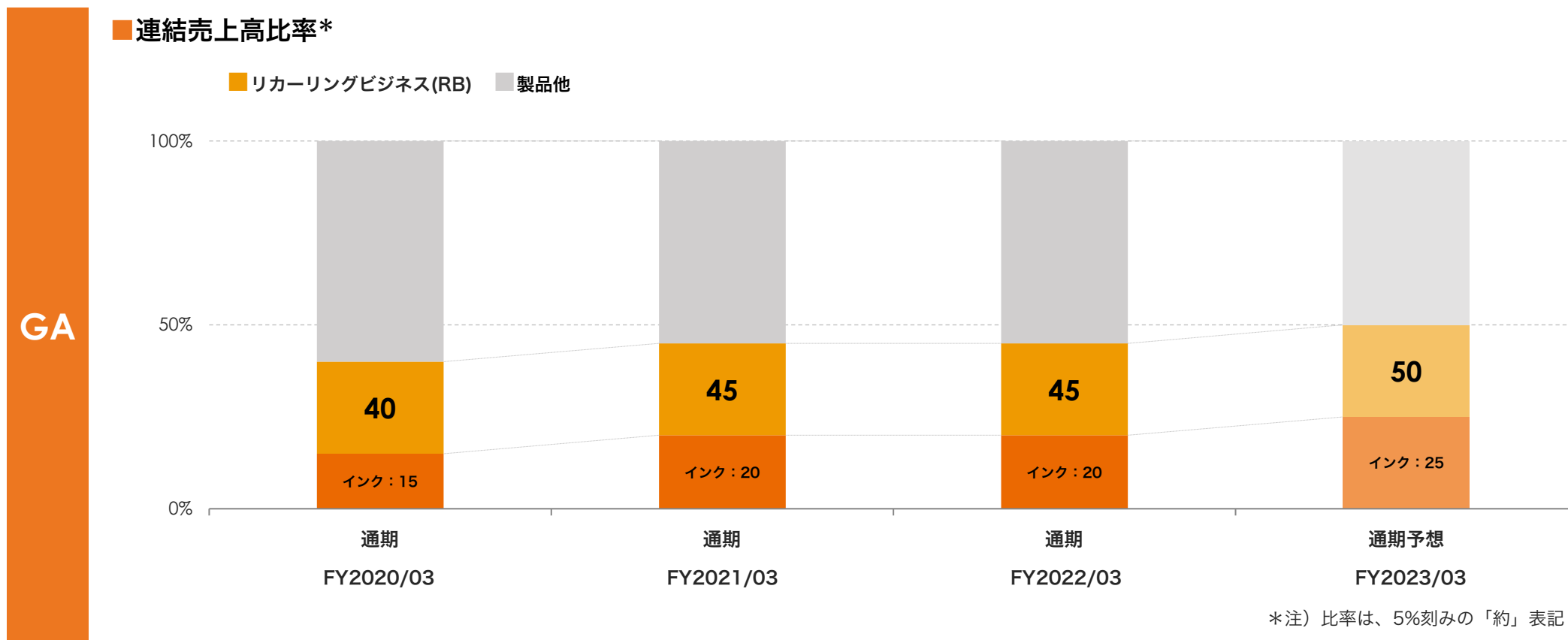
>>SBT※の達成に向け、彦根、多賀事業所では再生エネルギーを採用。空調設備更新など、省エネルギー投資も継続

※ SBT (Science Based Targets イニシアチブ) : 科学的根拠に基づいたCO2排出削減目標の設定を求め、地球温暖化防止に向けた国際的なイニシアチブ

>>半導体の強い市場環境を追い風に、さらなる生産設備の拡大を検討中

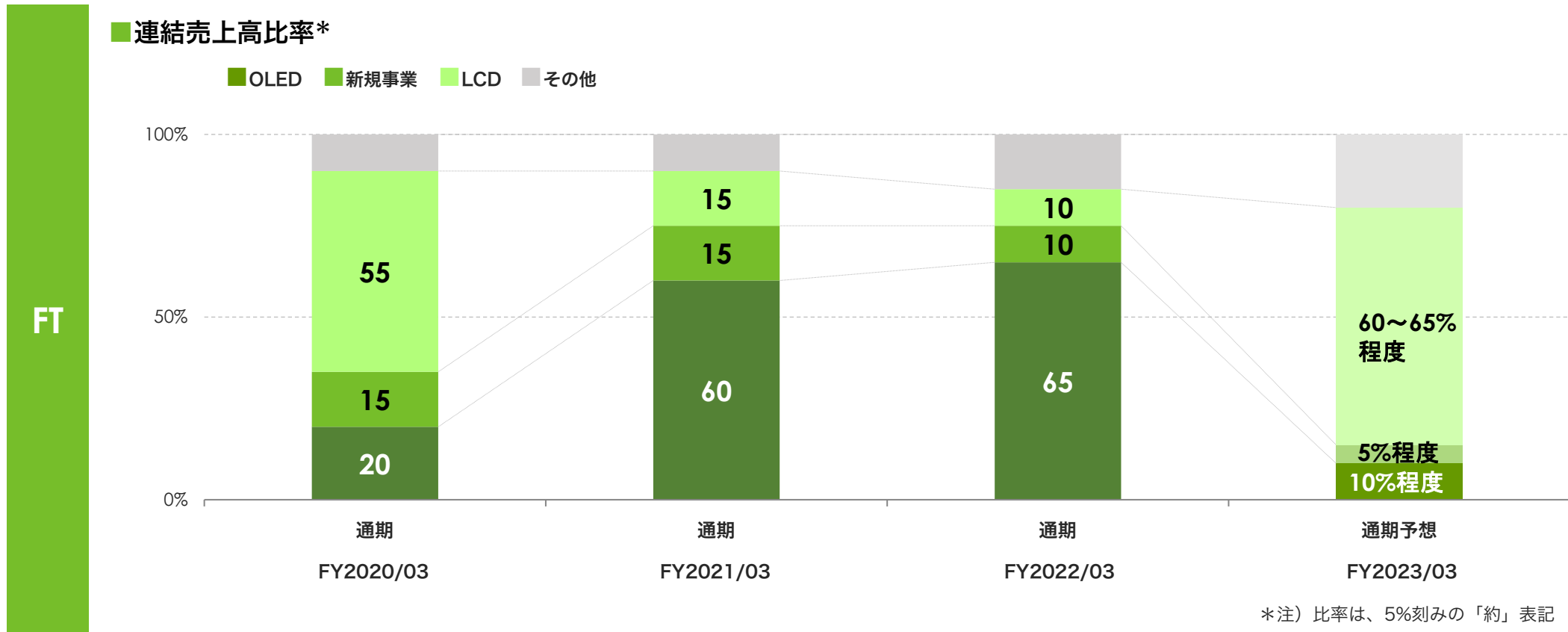
完成予定図 (2023年1月稼働予定)

## リカーリングビジネスは安定推移



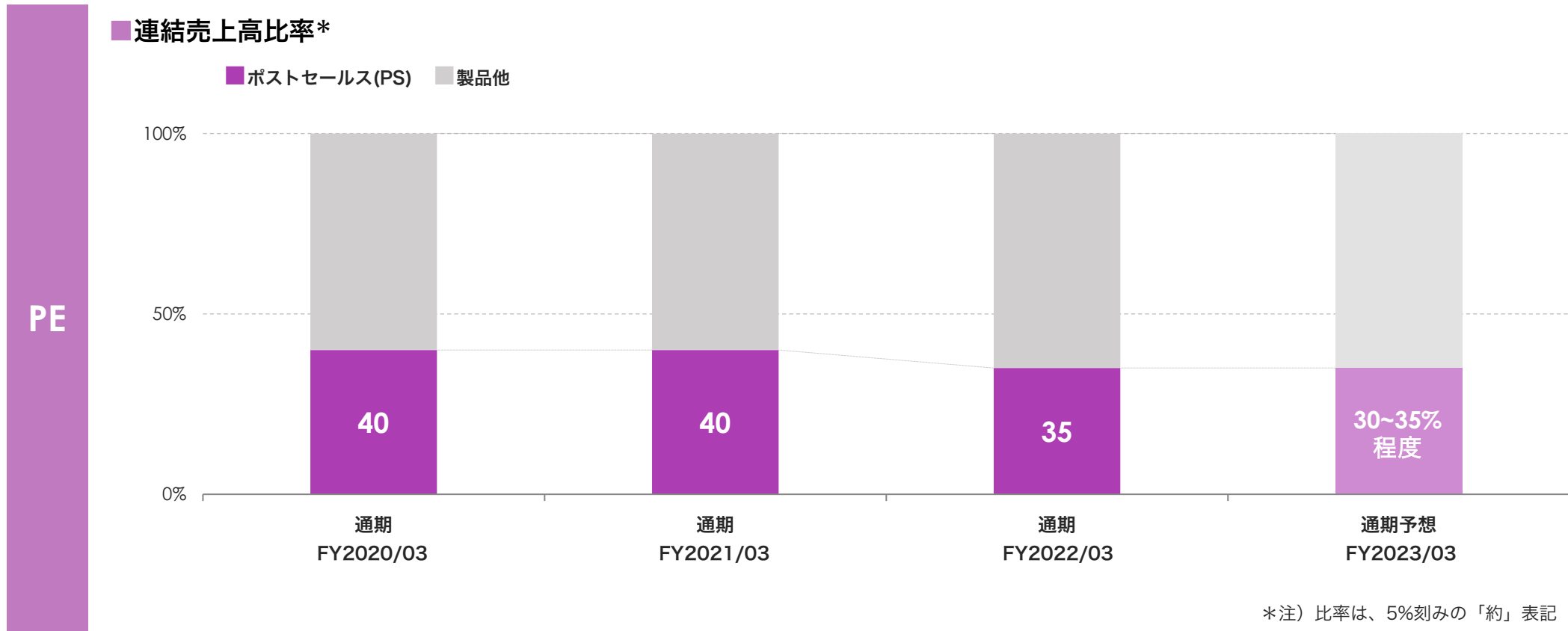
- インクを中心とするリカーリングビジネス (RB) は堅調に推移
- 部材不足、物流コスト高などを抑制しつつ、北米、欧州での旺盛化するPOD需要に注力
- 収益性改善により営業利益率5%以上への回復

## 今期、高精細LCDの売上増加



- 4Q、連結受注高は44億円（LCD中心）、1QはLCD中心を見込む
- 前期に生産設備などのリソースをSPEへシフトし構造改革を実施、グループ内のシナジー創出
- 1Q 上海のロックダウンの影響を受け、納入タイミングの遅れなど、不透明な環境を想定

## ■ ポストセールスは安定推移



- データセンター、5G、パッケージ向け需要が引き続き旺盛
- 新製品 (Ledia Twin、Ledia 7) は順調に顧客浸透
- 次期以降の成長へ向け、新製品開発を強化

# FY2023/03 業績予想 (2022年5月11日時点)

※   は過去最高

	FY2022/03 実績			FY2023/03 予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
(億円)						
<b>売上高</b>	<b>1,872</b>	<b>2,246</b>	<b>4,118</b>	<b>2,195</b>	<b>2,405</b>	<b>4,600</b>
SPE	1,414	1,779	3,193	1,820	1,900	3,720
GA	209	223	433	195	195	390
FT	175	157	332	110	215	325
PE	58	74	133	60	80	140
その他および調整	14	11	25	10	15	25
<b>営業利益</b>	<b>240</b>	<b>371</b>	<b>612</b>	<b>320</b>	<b>425</b>	<b>745</b>
営業利益率	12.9%	16.6%	14.9%	14.6%	17.7%	16.2%
SPE	243	385	628	355*	425*	780*
GA	6	9	16	10*	10*	20*
FT	1	4	5	△10*	15*	5*
PE	9	11	20	5*	15*	20*
その他および調整	△19	△38	△58	△40*	△40*	△80*
<b>経常利益</b>	<b>237</b>	<b>356</b>	<b>594</b>	<b>310</b>	<b>420</b>	<b>730</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>176</b>	<b>278</b>	<b>454</b>	<b>220</b>	<b>280</b>	<b>500</b>

注) FY2023/03 (通期) 想定為替レート>> 1USD=¥120、1EUR=¥132  
 想定為替感応度 (通期営業利益ベース) >> 対USD: ¥1.6億、対EUR: ¥0.4億

\* セグメント別営業利益予想: 5億円刻みの「約」表記

(億円)	上期予想 (当期実績)	下期予想 (当期実績)	通期予想 (当期実績)
減価償却費	<b>49</b> (47)	<b>53</b> (47)	<b>102</b> (95)
設備投資額	<b>120</b> (41)	<b>140</b> (92)	<b>260</b> (134)
研究開発費	<b>145</b> (105)	<b>145</b> (135)	<b>290</b> (240)

・ HD開発を強化し、LS分野、AI分野、ADPKG分野、水素関連分野への新製品開発を目指す

## >> 配当予想について

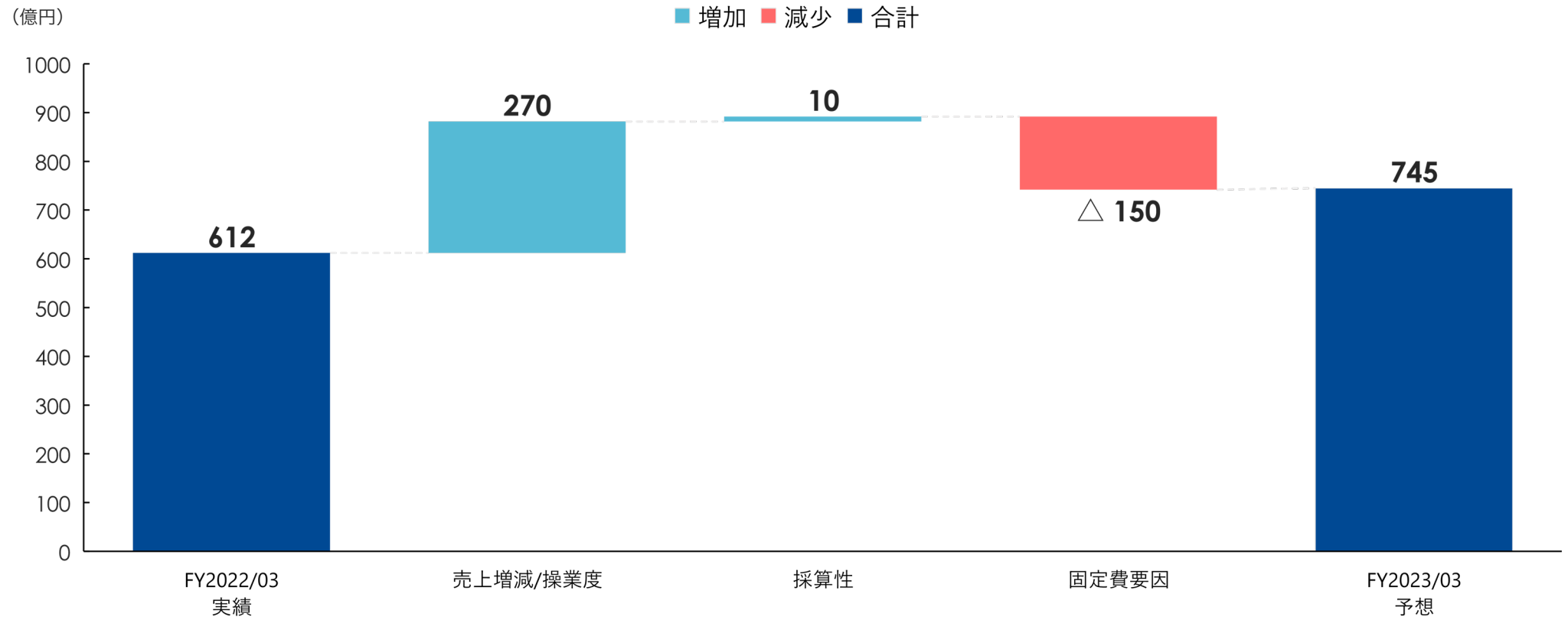
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益の増加を踏まえ増配を予定
- ・ 中期経営計画の連結総還元性向30%以上方針に沿って、株主の皆様へ還元

(円)	通期 (当期予定)
1株当たり配当予想	<b>322</b> (293)



# 営業利益増減分析

## FY2023/03 予想 (FY2022/03 実績比)



※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

>>今期はSPE中心に成長投資を予定するも、売上増、採算性向上による利益増加を想定（ほとんどがSPEの影響）

>>固定費の増加は主にSPE。成長に向けた研究開発、設備投資、人員増などの人件費アップを見込む

# 経済的価値の目標、1年前倒しで達成を見込む

→1Q決算時（7月）に見直し目標値を開示予定

	経済的価値の目標	FY2021/03 実績	FY2022/03 実績	FY2023/03予想
売上	4,000億円以上	3,203億円	4,118億円	4,600億円
営業利益率	15%以上	7.6%	14.9%	16.2%
ROE	15%以上	7.9%	19.9%	20%以上
営業CF	1,200億円以上 (4カ年累計)	572億円	1,389億円 (2カ年累計)	1,700~1,900億円 (3カ年累計)
株主還元	連結総還元性向30%以上	27.7%	30.1%	30.0%以上

\*上記5項目の数値目標はオーガニック・グロースを前提  
\*当期実績の網掛背景値は達成項目

- HD : ROIC経営の浸透により、収益性と効率性を追求  
ゲンバKPIの導入により社内の意識も変化
- SPE : 微細化や最先端技術向けの開発により、洗浄装置の競争力強化  
→営業利益率20%以上へ、不採算領域の構造改革、生産効率改善を継続（2023年1月に稼働する新工場S<sup>3</sup>-4が貢献）
- GA : POD戦略を強化し、リカーリングビジネスを安定化
- FT : 既存ディスプレイ事業では収益改善、エネルギー事業の成長投資を実施
- PE : 新製品開発に注力、前期投入した新機種でシェアアップを図る

# 最近のグループニュース (Webサイトより抜粋：2022年1月29日～2022年5月11日)

HD

- 「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター 2022」を受賞
- 信用格付の変更について (BBB+ポジティブ から A-ポジティブに変更)
- ウクライナにおける人道支援活動のための義援金拠出について
- 京都市上京区内に防災用倉庫を寄贈
- 「令和3年度しが生物多様性取組認証制度」において最高評価の3つ星を獲得
- 熊本県益城町の当社敷地内に「旧テクノ仮設団地記念碑」を建立
- 第66回京都府発明等功労者表彰「最優秀賞」を受賞 ～基板処理装置の発明～
- 子会社の株式譲渡および関連サービス事業の譲渡に関するお知らせ
- SCREENとNPO法人「天才アートKYOTO」、障がいのある人の芸術創作活動の支援に関する協定を締結

GA

- 「Truepress Jet L350UV SAI S」が、EDP2021「Best Label Printer賞」を受賞

FT

- 脱炭素・水素社会に向け、燃料電池部材「MEA」の量産事業を開始

# ESG関連の取り組み

## ■ E（環境）：気候変動に対する取り組みと環境経営の実現

- TCFDへの取り組み
  - 当社SPE事業についてシナリオ分析などを行い、Webに開示（2022年5月下旬予定）
- 再生エネルギーへの切り替え（SPE主力拠点彦根と多賀が導入）
  - 設備更新などの継続的取り組みと合わせて、2022年3月期実績：2019年3月期比 約15%削減（参考：SBTに基づくScope1,2の目標 2024年3月期：10%削減、2030年3月期：30%削減）

## ■ S（社会）：ディーセントワーク\*の実現と社会的価値の創造

\*働きがいのある人間らしい仕事

- 所定就業時間の削減：「働き方改革」の推進の一環
- 健康経営を実践し、従業員の健康を増進
  - 第3回コロナワクチン職域接種（本社、彦根）実施中
  - 「健康経営優良法人2022」に認定

## ■ G（ガバナンス）：リスクに強いガバナンス体制と組織づくり

- 取締役会の実効性評価実施
  - 第三者機関によるアンケートを実施。評価結果の概要をWebに近日開示予定
- 株式会社日本格付研究所の当社「長期発行体格付」が A-（見通し：ポジティブ）に変更（2022年3月18日）
  - \*変更前：BBB+（ポジティブ）
- グループリスクマネジメントの強化
  - 国内外グループ通報窓口の統一：Web上での通報システム整備（2022年3月1日～）




## ■ 「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター 2022」を受賞

株式会社SCREENホールディングスは、特許データの分析から見る世界の革新的な企業・機関トップ100に選出され、「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター 2022」を受賞。

- 「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター」は世界的な情報サービス企業であるクラリベイト社が保有する特許データを基に、世界の企業・機関の知財動向を分析し、評価される
- 評価は2段階のアプローチに基づき、下記の要素から構成
  - 1段階目・・・「数量」
  - 2段階目・・・「影響力」「成功率」「グローバル性」「技術分野の広さ」

Top 100  
Global  
Innovator  
2022

 Clarivate™

>>今後もイノベーション創出を目指した研究開発と、それを支える知的財産創出をさらに強化  
>>知財戦略の強化と経営戦略との一体化を目指し、戦略立案部門をHDに設立

## 信用格付（長期発行体格付）変更について（株式会社日本格付研究所公表、2022年3月18日付）

	格付	見通し
変更前	BBB+	ポジティブ
変更後	A-	ポジティブ

## 子会社の株式譲渡および関連サービス事業の譲渡契約を締結（2022年4月19日付）

(株)SCREENグラフィックソリューションズは、完全子会社であるInca Digital Printers Ltd.（英国）とSCREEN GP IJC Ltd.（英国）の全株式、および米国におけるInca Digital Printers Ltd.関連のサービス事業をベルギーに本社を置くAgfa-Gevaert N.V.への譲渡契約を締結（譲渡完了は2022年5月末日予定）

### ■株式譲渡

商号	事業内容
Inca Digital Printers Ltd.	ワイドフォーマット向け産業用インクジェットプリンターの開発・製造・保守
SCREEN GP IJC Ltd.	BHS Corrugated Maschinen- und Anlagenbau GmbHのインラインコルゲーター向けプリントエンジンの開発・製造

### ■事業譲渡

SCREEN GP AMERICAS, LLC（米国）が主管する米国におけるInca Digital Printers Ltd.関連のサービス事業

## ■脱炭素・水素社会に向け、燃料電池部材「MEA」の量産事業を開始

株式会社SCREENファインテックソリューションズは、三菱商事RtMジャパン株式会社と提携し、燃料電池の重要部材である膜電極接合体MEA※1の量産事業を開始。

- 当社は2013年に燃料電池MEAの量産技術の開発を始め、電解質膜に電極触媒を直接塗工し乾燥させる技術開発に成功※2。当社グループの持つノウハウで製造プロセス全体を構築し、高品質な燃料電池MEAの量産を実現
- 2021年の燃料電池の市場規模は3,700億円。2030年には5兆円規模に拡大し、そのうち燃料電池MEAは7,000億円程度を占めると予想・分析される
- 燃料電池の多用途活用の実現に関する技術開発は、経済産業省「ゼロエミ・チャレンジ企業」※3に選定

※1 MEA (Membrane Electrode Assembly) : 固体高分子型燃料電池の耐久性および性能を左右する重要部材。イオン交換膜、触媒層、ガス拡散層から構成される

※2 本成果は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の助成事業の結果得られたもの

※3 経済産業省が、脱炭素社会の実現に向けたイノベーションに果敢に挑戦する企業を選定したもの

>>今後、燃料電池MEAの量産実績を重ね、MEA製造におけるグローバルなリーディングカンパニーを目指す  
>>地球環境への負荷を軽減し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進



## 「Truepress Jet L350UV SAI S」が、EDP2021「Best Label Printer賞」を受賞

(株)SCREENグラフィックソリューションズが開発・販売するUVインクジェットラベルプリンティングシステム「Truepress Jet L350UV SAI S」が欧州の印刷業界誌団体「European Digital Press Association (EDP) ※」の「Best Label Printer賞」を受賞。

- 前モデルである「Truepress Jet L350UV+」と比べ、生産性の向上や7色同時搭載による色域の拡大、インク量削減などさまざまな機能をアップデート。自社開発ソフトウェアによる操作性の良さなども評価
- 2014年に初代モデル「Truepress Jet L350UV」で同賞を受賞、2018年には次世代モデルである「Truepress Jet L350UV+LM」でも受賞し、本モデルで3度目の受賞

※ 2006年に設立されたEDPは、デジタル印刷工程に焦点を当てた印刷専門誌21社から構成される業界団体。EDPによる「European Digital Press Association (EDP) アワード」は、生産性、コスト、操作性、機能性、環境対応などの項目においてデジタル印刷業界に大きな影響を与えた革新的な技術をたたえ授与される



>> 「Truepress Jet L350UVシリーズ」は、市場要求の高い欧州市場を中心に世界中で高く評価  
>> 今後もラベル印刷業界の多様なニーズに応え、商品の価値を高めるソリューションを提供し、同業界の発展に貢献



## 前期比

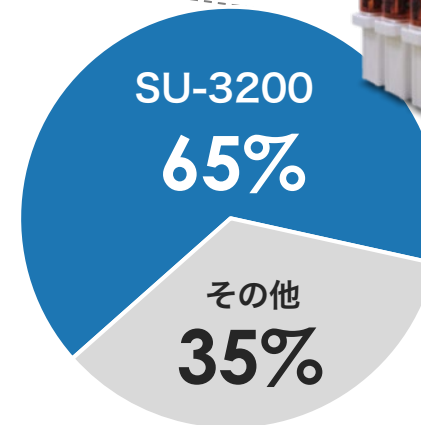
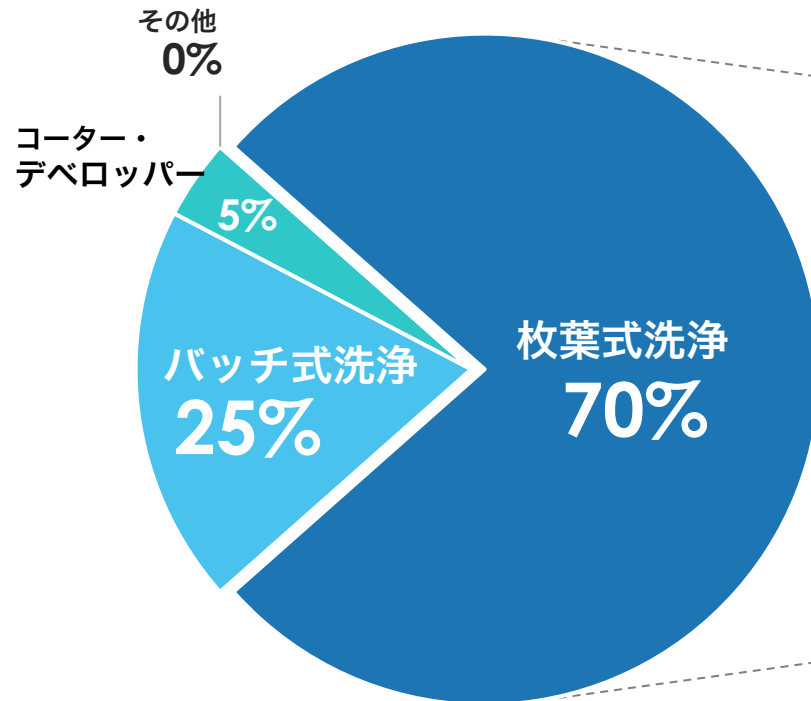
	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	通期	通期		
(億円)				
売上高	2,355	3,193	838	35.6%
営業利益 営業利益率	259 11.0%	628 19.7%	368	141.7% 8.6pt

## 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	3Q	4Q		
(億円)				
売上高	846	932	85	10.1%
営業利益 営業利益率	171 20.2%	214 23.0%	43	25.3% 2.8pt

# Appendix>> 単独・売上高比率

## 製品別売上高比率 - FY2022/03 通期



(%)	FY2019/03	FY2020/03	FY2021/03	FY2022/03
枚葉	65	65	70	<b>70</b>
バッチ	20	25	25	<b>25</b>
コーデベ	10	5	5	<b>5</b>
その他	5	5	0	<b>0</b>

※上記比率は、5%刻みの「約」表記

# Appendix>> セグメント別業績

## 前期比

	FY2021/03		FY2022/03		増減	
	(億円)		通期	通期		
売上高		374	433	59	15.8%	
営業利益 営業利益率		5 1.4%	16 3.8%	11	205.5% 2.3pt	

## 前四半期比

	FY2022/03		FY2022/03		増減	
	(億円)		3Q	4Q		
売上高		99	123	23	23.9%	
営業利益 営業利益率		4 4.3%	5 4.3%	0	22.9% 0pt	

# Appendix>> セグメント別業績

## 前期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	通期	通期		
(億円)				
売上高	347	332	△14	△4.1%
営業利益 営業利益率	4 1.3%	5 1.8%	1	35.0% 0.5pt

## 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	3Q	4Q		
(億円)				
売上高	55	101	46	83.7%
営業利益 営業利益率	△3 △5.5%	7 7.2%	10	- 12.7pt

# Appendix>> セグメント別業績

## 前期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	通期	通期		
(億円)				
売上高	104	133	28	27.6%
営業利益 営業利益率	7 7.4%	20 15.6%	13	168.3% 8.2pt

## 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	3Q	4Q		
(億円)				
売上高	33	40	6	20.2%
営業利益 営業利益率	6 17.8%	5 12.9%	△0	△12.4% △4.8pt

# Appendix>> 主要数値の変遷

(億円)	FY2018/03	FY2019/03	FY2020/03	FY2021/03	FY2022/03	FY2023/03 予想
売上高	3,393	3,642	3,232	3,203	<b>4,118</b>	<b>4,600</b>
営業利益	427	296	125	244	<b>612</b>	<b>745</b>
営業利益率 (%)	12.6	8.1	3.9	7.6	<b>14.9</b>	<b>16.2</b>
総資産	3,658	3,809	3,479	3,826	<b>4,593</b>	-
自己資本	1,708	1,791	1,739	2,083	<b>2,477</b>	-
自己資本比率 (%)	46.7	47.0	50.0	54.5	<b>53.9</b>	-
ROE (%)	18.2	10.3	2.8	7.9	<b>19.9</b>	-
減価償却費	57	68	88	96	<b>95</b>	<b>102</b>
設備投資額	144	240	79	78	<b>134</b>	<b>260</b>
研究開発費	208	228	215	215	<b>240</b>	<b>290</b>
EPS (円)	608.62	387.10	107.37	325.21	<b>976.55</b>	<b>1,073.47</b>
期末配当 (円)	110	97	30	90	<b>293</b>	<b>322</b>





**Innovation for a Sustainable World**